

伊万里焼

肥前陶磁器流通の

一大拠点「伊万里津」

有田を中心に作られた磁器は、伊万里津(※1)から積み出され、江戸や大坂をはじめとして全国に流通していききました。これらは、積み出し港の名前から「伊万里焼(※2)」と呼ばれ、国内の磁器市場のシェアの大部分を獲得します。

また、海外向けのものには長崎へ運ばれ、中国やオランダの商人を通じて東南アジアや中近東、ヨーロッパなどへ流通しました。現在もヨーロッパの宮殿や邸宅に当時の磁器が飾られており、世界中で珍重されていた様子をうかがい知ることが出来ます。

※1 津とは港を意味します。
※2 現代の「伊万里焼」と区別するため、当時のやきものを今は「古伊万里」と呼んでいます。

伊万里の陶器商人のマーケティング力は日の本一!

当時の伊万里津は、伊万里川沿いに陶器商人の白壁土蔵が建ち並び、とてもにぎわっていました。今



↑旧大塚家住宅 (市陶器商家資料館)

もその面影は旧大塚家住宅(市陶器商家資料館)などに見ることが出来ます。この発展の裏には、世界市場の動向を懸命に探った伊万里の陶器商人のたゆまぬ努力がありました。たとえば古伊万里の代表的な様式の一つで絶大な人気を誇る柿右衛門様式。この色絵の技法を中国の陶工から教わり、それを初代酒井田柿右衛門に伝えたのは、伊万里の陶器商人、東嶋徳左衛門だとされています。

当時の伊万里の商人はいち早く世界を見据え、伊万里ブランドの定着に大きく貢献したのです。

最高峰の技術を

集結した鍋島焼

(一般市場向けの伊万里焼(古伊万里)とは別に、將軍家への献上などを目的として作られ、日本磁器の最高峰とされる「鍋島焼」。これらを作るための佐賀藩直営の窯「藩窯」は、1660年頃に大川内

武雄焼

磁器と陶器

双方を発展させた武雄焼

1590年代に武雄領主が連れ帰った朝鮮陶工、深海宗伝らによってもたらされた武雄焼は、武内町を中心に生産が始まります。有田の泉山の陶石を使用して製作されるやきものもあつたものの、原料の調達に難しかったことと、良質な土に恵まれたことで、徐々に土を原料とした陶器の生産が盛んになりました。当時の陶器は装飾を施すことが一般的ではありませんでしたが、武雄の陶器は白い化粧土や緑釉(緑色)や褐釉(茶色)を使用して装飾を施したデザインが斬新であると人気を呼び、日本各地のみならず東南アジアにまで流通しました。そのデザインは現代アートにも通じ、今でも注目を集めています。



鉄絵緑彩松竹梅文大壺 (17世紀後半) 佐賀県立九州陶磁文化館所蔵 中島宏コレクション

陶器の印象が強い武雄焼ですが、山内地区と川登地区では磁器の製作も行われていました。特に有田の泉山に近い山内地区の百間窯では磁器が作られ、その多様な文様と種類は高く評価されています。現在でも市内には80軒近くの窯元があり、陶器と磁器の流れを汲むそれぞれの個性を生かしたやきものが生み出され続けています。

武雄の陶工が

有田焼にも影響を与えた!

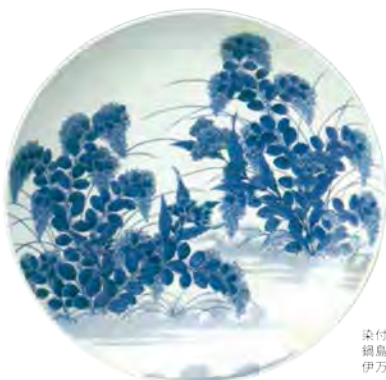
武雄にやきものの技術をもたらした深海宗伝は1618年に死去するまで、武内エリアで朝鮮の技法を伝え、武雄焼の主に陶器の技術の発展に尽力しました。

また窯跡からは初期の磁器片も出土しており、武雄でも磁器の製

山に置かれました。有田から高い技術を持った陶工を選び、集め、番所を設けて立ち入りを厳しく制限することでその技法が外部に漏れないようにしたのです。ここで生まれた数々の名品は人々を魅了し続け、その高度な技法は今も脈々と受け継がれています。当時の鍋島の様式美を受け継いだものから、新たな技術を取り入れて現代の生活感覚に合うように作られたもので、多彩な製品が作り続けられています。



青磁色絵果樹文皿 鍋島(1700~1730年代) 伊万里・鍋島ギャラリー所蔵



染付秋草文皿 鍋島(1700~1730年代) 伊万里・鍋島ギャラリー所蔵



染付秋草文輪花鉢 大鉢(1750~1770年代) 佐賀県立九州陶磁文化館所蔵

作に取り組んでいます。

しかし原料の問題から磁器が上手くできなかったため、宗伝の死後、その妻である百婆仙は一族を率いて有田へ移り住み、磁器の作陶を始めます。百婆仙の磁器への高い探求心は、有田焼の発展に大いに貢献したと言われます。

百婆仙の活躍は韓国ドラマの「火の女神ジョンイ」のモデルとしても描かれるほど、韓国でもその功績が認められています。



唐津焼の名品は 現在の伊万里市で 生まれた!?

「伊万里焼」といえば、古伊万里や鍋島など磁器のイメージが強いですが、陶器とも深い関わりがあります。

伊万里市内にある江戸時代の窯跡の約8割は陶器の窯跡です。その数は唐津市内よりも多く、南波多町や大川町、松浦町などに分布しています。そこで作られた陶器は唐津焼として全国に流通し、名品の代名詞として「楽、二萩、三唐津」と言われるほどに。現在の伊万里市内でも、唐津焼の流れを受け継ぐ陶器の伊万里焼が作られています。

オススメ!

伊万里駅ビル

陶器商家の白壁と窯の煙突をモチーフにしたデザインの伊万里駅ビル。施設内には、伊万里焼を楽しめるスポットがたくさん。



【伊万里・鍋島ギャラリー】
古伊万里・鍋島の名品を数々展示
【伊万里観光協会物産店】
伊万里焼の各窯元の商品展示・販売
【伊万里百貨店】
伊万里焼の器で楽しむコーヒーは格別の味



伊万里市 金子



「武雄焼」は いわゆる 存在しなかった!?

有田、伊万里と同様400年以上の歴史を持つ武雄焼ですが、実は「武雄焼」として人々に認識され始めたのは最近のことです。

佐賀県内でも有数の陶磁器産地であるにも関わらず武雄で作られたやきものは、陶器は唐津焼として、磁器は伊万里焼や有田焼として流通しており、その産地が人々に認識される機会すらありませんでした。近年、武雄市内で作られる陶器や磁器を合わせて「武雄焼」とブランド化することで、徐々にやきものの産地としての認識が高まっています。

黒髪山陶芸村

山内町黒髪山の麓に連なる黒髪山陶芸村では、黒髪山を望む自然風景と陶器や磁器の個性的な窯元散策が楽しめる。11月22日(木)~25日(日)には窯元共同開催の窯開きイベント「黒髪山陶芸村 秋の窯開き」が開催され、各窯元で通常より安く器が購入できる。



【日時】11月22日(木)~25日(日) 10:00~17:00

【場所】武雄市山内町大字宮野

【問】☎0954-45-4905 辻修窯



武雄市 中島